



つながるカレッジねりま みどり分野

ねりまの森維持管理コース 講座だより

第8回「森の樹木の特徴と剪定方法を学ぼう③(竹の管理編)」 (樹木③)

日時：令和5年1月14日(土) 9:30～12:30

会場：南大泉地域集会所(南大泉5-26-19) / 竹の子憩いの森(西大泉1-22)

今回の講座の流れ



竹の特性と竹林管理について学びました。屋外実習は雨天のため中止となり、室内実習に変更となりました。実習では、竹引きノコギリ等で3種類の竹を切り、それぞれの違いを確認しました。

各プログラムの様子



講義の様子



講義の様子



実習の様子



竹の子憩いの森

実際に竹を観察しながら、伐採する竹の選び方など、講義中に説明した内容を確認しました。

竹の特性と管理について

竹の性質と種類では、樹木との違いや竹林管理の必要性について学びました。管理方法では、作業時期や作業手順の他、理想の竹林密度・伐採する竹の選び方、使用する道具について講義がありました。その他、竹林を管理する上で留意すべきポイントについても学びました。

安全管理の確認



刃物の取扱い(竹引きノコの使い方)を中心に確認しました。

竹の管理



3種類の竹(枯竹・3年目の竹・1年目の竹)の違いや、経年変化によって切断する感触や重さが異なることを学びました。また、竹用のノコギリの形態や扱い方の違いの講義の後、講師のレクチャーを受けながら竹の切断作業を体験しました。



観察会の様子

ねりまの森維持管理コースについて

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

今回のキーワード



竹の利活用をしよう

(一社)練馬環境造園協会

私たち日本人にとって、竹は生活に欠かせない身近な材でした。食用の他、味噌作り等に欠かせない樽や建築材と様々です。しかし現在では竹に代わる材が多く開発され、竹が使われているものを探すのにも苦労します。計画的なお手入れがされていない竹林を理想の竹林(密度)にするためには、年間・長期管理計画の元、多数の竹を伐採し竹林を更新する必要があります。毎月10本伐採すれば年間120本分の竹がごみとなります。捨てれば廃材、使えば宝。昔の人の知恵を借り、竹を生活にもっと活かしていきませんか。

森でみつけた!



頭上にも注意



竹は1日で1m以上伸びることがある程、生育が旺盛です。また竹は高木樹木ではありませんが、高さ22m位に成長する多年生植物です。そのため毎年管理が欠かせません。伐採をする際は、足元や周囲はもちろん、頭上にも注意が必要です。高木の近くに生育している場合、枯れ枝が落下することも考えられます。竹は目視確認で感じるよりも高さ・葉張り(2m以上)・重さがあります。ヘルメットの着用はもちろん、メンバーとの打合せや連携、声掛けをしっかり行いましょう。